



飛騨っ子



続けることで 習慣化する

令和6年2月21日発行 NO11
 飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係
 家庭教育推進専門職：水口 悟
 TEL: 0577-33-1111 (内線 235)
 E-mail: mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp



◇ 今年もやりますよ～ 白川村家庭教育ノート ココカラ→ 在宅取組型

令和5年度



日ごろはあまり意識することのない我が家の姿を家族みんなで見つめるためのノートです。これを機に益々家族が、理解し合い、尊重し合い、信頼し合い、家族の絆を深めていけることを願っています。 白川村教育委員会



「我が家ならではの家族行事」はやっぱり家族の誕生日会!!

家族みんなで集まる最大の家族行事は、やはり「誕生日会」なんですね。なかにはおじちゃんおばあちゃんの誕生日や、離れて暮らす兄弟などの誕生日も家族みんなで祝いする家庭もありました。お父さんの誕生日の企画を子どもたちが計画したり、誕生日ケーキをお母さんと一緒に作ったりするなど、各家庭ならではのあたたかい誕生日会が開かれているようです。

誕生日会とは、誕生日の人が主役とお祝いされる会ではありますが、命の誕生日であり、親となった日、兄姉となった日など、いろいろな意味で大切な日ですね。「誕生日」＝「命を大切にする日」として、生まれた日のエピソードをお子さんに話したり、小さい頃のアルバムを見たりするなど、家庭での命の教育の場としてもみも良いのではなかろうか。

**お子さんの成長に伴い一緒にしかかわる時間が少なくなってしまう...
「だからこそ、一緒に過ごせる今を大切にしたい!」**

お子さんが後期課程になると部活動や勉強など毎日が忙しく、仕事をしている親さんの時間も合わず、さらには思春期も重なり、なかなか一緒に過ごすことが出来ないとのコメントがありました。しかし、そんな中でも「家族みんなが揃ったときの食事の時間を大切にしている」「車での移動時間というのを話す」「夏休みにガッツリ子どもと一緒に過ごす1日を頑張った」など、今だからこそ大切にしたい親子の時間をうまくつとめる家庭がとても多かったです。

学園卒業後は、多くの子どもたちが村外の高校へ進学するため、今以上に親子で一緒に過ごす時間が減ります。だからこそ、今を大切にしたい親子の間取りはともども大事ですね。親子の間取りをたっぴりと心得ている子どもたちは、将来自分が親になったとき、同じようにわが子にたっぴりと愛情を注ぐようになるといわれています。今を大切にすることは未来を大切にすることに繋がりますね。



今年もPTA学級委員さん 保育園父母の会役員さんがコメントを書きました。

岐阜県には、「岐阜県家庭教育支援条例」が設置されており、保護者のみならず祖父母や地域の役割などが定められています。家庭教育については各家庭の責任と想われがちですが、みんなで考え、みんなで支え合っていくことが大切です。そのためにも、PTA や父母の会が家庭教育推進に関わっていくことは重要です。



- 期間:令和5年度 夏休み
- 対象:白川保育園 白川郷学園の全家庭
- 主催:白川村教育委員会

白川村教育委員会が中心となり取り組まれている「白川村家庭教育ノート ココカラ→」(3年目)は、家族みんなが楽しく取り組めるための工夫満載! 取組を通してわが家のほっこりファミリー力を発見した喜びが、たくさん紹介されています。

<願ひ>

日ごろはあまり意識することのないわが家の姿を家族みんなで見つめるためのノートです。家族が理解し合い、尊重し合い、信頼し合い、家族の絆を深めていけることを願っています。

今年もPTA学級委員さん 保育園父母の会役員さんがコメントを書きました

岐阜県には、「家庭教育支援条例」が設置されており、保護者のみならず祖父母や地域の役割などが定められています。家庭教育については、みんなで考えみんなで支え合っていくことが大切です。そのためにPTAや父母の会が家庭教育推進に関わっていくことは重要です。

(保護者より)『言葉かけ』は、朝起きてどんなに眠くても家族全員ちゃんと「おはよう」が言っていると、チェックしながら気付きました。地域の方に会っても私(母)が挨拶をした後に続き、「こんにちは!」などの挨拶が言える子どもたち。わが家の良さだと思えます。

(役員より) ご家族で一致して取り組まれていることがすばらしいと思いました。家族会議は本当に大切です。これからも夫婦でトークを深めていきましょう。私たちも見習って取り組もうと思いました。ありがとうございます。

「わが家のファミリーカ」通信簿

岐阜県家庭教育支援条例に基づき、家庭教育推進の観点から、保護者のみならず祖父母や地域の役割などが定められています。家庭教育については、みんなで考え、みんなで支え合っていくことが大切です。そのためにPTAや父母の会が家庭教育推進に関わっていくことは重要です。

項目	達成状況
家族みんなで集まる最大の家族行事は、やはり「誕生日会」なんですね。	○
おじちゃんおばあちゃんの誕生日や、離れて暮らす兄弟などの誕生日も家族みんなで祝いする家庭もありました。	○
お父さんの誕生日の企画を子どもたちが計画したり、誕生日ケーキをお母さんと一緒に作ったりするなど、各家庭ならではのあたたかい誕生日会が開かれているようです。	○
誕生日会とは、誕生日の人が主役とお祝いされる会ではありますが、命の誕生日であり、親となった日、兄姉となった日など、いろいろな意味で大切な日ですね。	○
「誕生日」＝「命を大切にする日」として、生まれた日のエピソードをお子さんに話したり、小さい頃のアルバムを見たりするなど、家庭での命の教育の場としてもみも良いのではなかろうか。	○
お子さんが後期課程になると部活動や勉強など毎日が忙しく、仕事をしている親さんの時間も合わず、さらには思春期も重なり、なかなか一緒に過ごすことが出来ないとのコメントがありました。	○
しかし、そんな中でも「家族みんなが揃ったときの食事の時間を大切にしている」「車での移動時間というのを話す」「夏休みにガッツリ子どもと一緒に過ごす1日を頑張った」など、今だからこそ大切にしたい親子の時間をうまくつとめる家庭がとても多かったです。	○
学園卒業後は、多くの子どもたちが村外の高校へ進学するため、今以上に親子で一緒に過ごす時間が減ります。	○
だからこそ、今を大切にしたい親子の間取りはともども大事ですね。	○
親子の間取りをたっぴりと心得ている子どもたちは、将来自分が親になったとき、同じようにわが子にたっぴりと愛情を注ぐようになるといわれています。	○
今を大切にすることは未来を大切にすることに繋がりますね。	○

<わが家のファミリーカ通信簿>



- 期日:令和6年1月16日(火) ○ 場所:飛騨高山ビックアリーナ
- 主催:高山市市民団体 ひだ遊育スクール richffl

ゆるっと繋がる地域の輪

日頃より地域でご活躍の専門職の方々と気軽にゆるりと交流してみませんか? 子育てのお悩み解決やお話してみたい方々と出会えるきっかけになればと企画しました!!

～ 専門職の方々のご紹介 ～

- 足とくつの相談所 ふき ○ 助産師のんのん
- 歯科衛生士 ○ 保育士 ○ スキンケアアドバイザー

今年度3回目(7月・9月・1月)の開催となった「ゆるりん交流会」。子育て中の親さんが集える場所や機会をつくり出しているところが素晴らしいです! 家庭から一歩踏み出して行けるところの存在はとても重要です。リフレッシュできる,新しい気づき(学び)がある,仲間とおしゃべりができる,情報を共有できる,自己肯定感を高め子育てへの意欲を継続できる…。雪の降る日でしたが,参加者が次々とドアを開け部屋に入ってみました。

ゆるりん交流会の特徴は,子どもの発達発達に関わる専門職の方々と,気軽に交流できる場があるという点です。日頃のちょっとした悩みや不安を質問しながら交流できる時間は,意外と無いものです。ちょっとそのことを知っていて,毎日の子育てをしていることは大切なことです。今回は,20分毎に聞きたい専門職の輪に移動しながら,交流が進められました。専門職の方々のワンポイントアドバイスに「なるほど」と頷き,「できるかも」と前を向く姿勢が,素晴らしいです。

<「足とくつの相談所」との交流>

くつは,子どもの柔らかい足を守る(ホールドする),筋力のバランスのとりにくいものを選ぶことが大切です。選ぶポイントは2つです。

- ・子どもの足とくつの縦と横のサイズが合っていること
- ・子どものかかどが固定されるように,くつのかかどが硬いもの

<「歯科衛生士」との交流>

食後の歯磨きの仕上げは,親さんがしてあげることが理想です。しかし,お子さんが毎日歯磨きを続ける習慣をつくるのが大切なので,仕上げ磨きは1日1回にするなど,お互いに無理をしないで,家族のペースで進めることが大切です。



<聞きたいテーマに移動しながら交流>



<専門職の話に耳を傾ける参加者>



<ハルジオン 自作リーフレット>



<ハルジオン café スタッフと交流する保護者>

<主な活動>

- 子どもの学びもできる居場所 (毎週3回) ・場所:民家 (空き家) を利用
- ハルジオン café (毎月第1・3・4水曜日 19:00~21:00 第2水曜日 15:30~17:30)
- ・場所:Hida-mari *第2水曜日のみ子どもの居場所にもなります。



<家庭教育支援チームの登録(文部科学省)>

飛騨市の市民団体・ハルジオンは、令和3年度から Hida-mari を上記の様に子どもや保護者が安心して過ごせる居場所を提供してきました。今年度5月には、新たに民家を利用し子どもの居場所の提供を始めています。さらに、今年度9月に文部科学省の「家庭教育支援チーム」として登録をされ活動をしています。

代表の方は、『今回、文部科学省の「家庭教育支援チーム」としての登録をしていただいたおかげで、地域の皆さんにより信頼を得ることができ、活動が進めやすくなった』という実感をもってみえます。

また、登録のメリット(全国に向けて情報を発信・ロゴマークの活用・家庭教育支援に関する情報や資料等の提供を受ける(参考:文部科学省「家庭教育支援チーム」の手引き))を最大限に活かし、『親子が自分らしく生きるために伴走型支援を継続』しようと意欲的に活動を進められています。

1月、とてもあたたかくきれいな部屋(ハルジオン café)で、スタッフと参加者の交流が進められていました。あたたかくゆったりとした時間が、保護者の不安や悩みを温かく包み込んでいます。代表の方が「一緒にいろいろなお話をしながら、子どもたちのことと自分たちのことのどちらも大切にできる様、気軽にお声かけください。」と話されました。ハルジオンでは、時々勉強会や交流会、また進学や就職の相談も行っています。

はじめまして ハルジオンです

～不登校や不登校経験者の子と親と一緒に歩む会～

【小中高生のみえる御家族の方へ】

お子さんの様子が気になる時や、悩みがある時、困った時にお話できる場所があることご存じですか？



家庭教育支援チーム

コンセプト:「温かく包む支援の輪」

地域の人々の支援の輪が、子供や保護者の方を温かく包み込むイメージを体現したロゴマークです。

(文部科学省「家庭教育支援チーム」の手引き)

<活動の概要>

学校生活に悩む小・中・高校生と家族の相談と当事者だからこそ安心して寄り添える居場所の確保と、それぞれが自分らしく生きるための長期にわたり可能な伴走支援を行う。

